

国際交流ひろば



ハーナウ市の歴史

グーテン・ターク。ドイツ出身の国際交流員イザベル・ハーターです。鳥取市とドイツ・ハーナウ市が姉妹都市となったことは、本当に素晴らしいことです。今回は、新しい姉妹都市を紹介します。

地理的に離れている 鳥取市とハーナウ市

姉妹都市提携の大きな目的は、両市民のよりよい相互理解を促進するということです。鳥取市とハーナウ市は地理的に離れていることもあって、お互いの文化や言葉を理解し合うために工夫をしなければいけません。相互理解を深めることは、グローバル化時代を迎えた現代の重要な課題ですが、昔の人も他の国の人との友好関係をつくるため、さまざまな取り組みをしています。

今回は、ハーナウ市の歴史上のできごとを紹介します。

二つの民族

これは十六世紀からハーナウ市に住み始めた、言葉の異なるワロン人とフラムン人の話です。ハーナウ市の観光名所にもなっている、ドイツでも有名な「ワローニッシュ・ニーダレンディッシェ教会」は、ワロン人とフラムン人の協力により造られました。この教会には、興味深い歴史があります。

十六世紀のヨーロッパではキリスト教徒の間で争いがあり、新教（プロテスタントのカルバン派）の人々が、旧教（ローマ・カトリック）側から宗教上の理由で迫害を受けていまし

た。その中には、北フランスやオランダなどから追放されたワロン人やフラムン人もいました。その頃、ドイツのハーナウ市を治めていたフィリップ・ルードビヒ二世は、思慮深く寛大な人で、祖国から追放されたこれらの人々をハーナウ市に受け入れるとともに、信教の自由も認めました。この二つの民族がハーナウ市の新市民になってすぐに、人々の心のよりどころとなる教会堂をつくる計画が進められました。しかし、この新市民は信仰が同じでも、言葉や文化が異なるという大きな問題を抱えていました。両者は、話し合いの結果、フランス語とオランダ語による儀式が共に行えるように、一つの教会堂に二つの様式の集会場を設け、平和な共

友好と相互理解

存を図ることとしました。この教会堂に象徴される寛容と相互理解の精神は、今もハーナウ市民の心にしつかりと息づいています。

両市の姉妹都市提携協定書には、「この署名は、両市民の総意に基づき、自由と平和のもとに永続的な友好を相互に確約する。」と書かれています。この素晴らしい理念の実現を目指して、ハーナウ市民との友好と相互理解がますます深まるよう、みなさんもたくさんのおもしろい交流を考えてみてください。また、ハーナウ市訪問時には、今回紹介した「ワローニッシュ・ニーダレンディッシェ教会」をぜひ、ご覧ください。



ハーナウ市の
ワローニッシュ・ニーダレンディッシェ教会